



美川小学校だより

令和7年9月5日 第7号

長子配布

Established in 1872. Be smart, kind and tough.



明治5年創立 地域とともに
たくましく
やさしく
かしこく



令和7年度 前期学校評価の結果

7月中旬に実施いたしましたアンケート結果です。表面は、それぞれの項目を数値化したもの、裏面には今後の改善策を掲載しております。回答率は84%となりました。皆様、ご協力ありがとうございました。

令和7年度 前期学校評価の結果				上段 肯定的評価：Aあてはまる+Bどちらかといえばあてはまる		下段 肯定的評価：Aあてはまる						
項目		具体的な取り組み	主担当	実現状況の達成基準	児童	判定	保護者	判定	教員	判定	分析	改善策
かこくへん	①	話す聞く力 ・学力PTで、構成的グループエンカウンターに取り組む。 ・それぞれの学期に、国語の「話すこと・聞くこと」の重点単元を決め、聞く目的や視点を決め、交流後にもった考えを振り返ったりする場を作る。	学習部 研究主任	自分から友達のことを聞いて話したりしている児童と聞く目的や視点を決めたり交流後にもった考えを振り返りする場を設定している教職員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A+B 93%	A			100%	A	・児童、教員ともに肯定的評価がAであり、取組の成果が見られた。 ・教員評価のAは73%であり、重点とする単元を設けて取り組んだ点があったと考えられる。 ・検証問題ではA評価が1学年、B評価が1学年、C評価が4学年であり、目標とする正答率に達しない学年が多かった。	・1学期同様、聞く力の育成に向け、国語科の「話すこと・聞くこと」の学習を重点単元とし、指導を行う。 ・児童が自ら聞く意欲や目的をもつために、児童の考えの違いやズレを明確にするような発問をしたり手立てをとったりする。
	②	家庭学習習慣化 ・家庭の手引きを改善する。 ・各学年に応じた家庭学習の内容や方法のヒントを提示する。 ・「レベルアップ週間」を設け、保護者の協力を得る。 ・個に応じ、量・質を弾力的に扱う	学習部 教務主任	家庭学習を自分から取り組んでいる児童・保護者が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A+B 83%	B	74%	C	100%	A	・保護者評価がCであり、家族からの声かけが必要な様子が見られる。学年によって宿題の出し方や量に違いがあったり、ゲームなど誘惑が多い中児童が「自分から」という部分に難しさがあると考えられる。	・2学期も「レベルアップ週間」を設け、児童自身が家庭学習の目標を決めて、自分から取り組むこと家庭学習として取り組むよう指導する。 ・3年生以上で自学しレベルアップの取組として学習しレベルを行い、いろいろな内容の自学に自分から挑戦できるようにする。 ・児童の実態に応じて、無理なく取り組めるように、宿題の量や質を調整する。
	③	伝え合い深める子の育成 ・伝え合う場や伝え合った後に自分の考えをまとめる場を設定する。 ・授業の中で、思考を深める手立てをとる。	学習部 研究主任	授業の中で考えを伝え合い、自分の考えに活かしていると考えた児童と、伝え合い深める子の育成に向けた指導を行っていると考えた教職員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A+B 83%	B			100%	A	・肯定的評価の割合は、昨年度前期とほぼ同じであった。 ・教員は、昨年度の積み重ねで、全職員で継続して指導している。 ・児童評価は肯定的評価がBであり、伝え合いを自分の考えに活かしていないと感じている児童が2割程度いる。	・伝え合う場や自分の考えをまとめる場を設定することは継続しながら、児童自身が自分で伝え合う意欲や伝え合う力が高まるよう指導する。 ・伝え合いだけでなく終わらないように、学びの振り返りや考えを整理する時間を設定し、学びの意欲を自覚できるようにする。
きこくへん	④	児童会活動 ・活動を計画的に配置し、指導する。 ・活動の様子の見える化を図り、児童に還元する。	特活部	美川っ子集会、委員会活動、美川っ子議会で自分の役割を果たそうとしていると考えた児童と、指導を工夫していると考えた教職員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A+B 96%	A	84%	B	100%	A	・肯定的評価がR6後期と比べて4%減退し、A評価だけを見れば、7%増となっている。 ・先生が各クラスでの活動の様子を見取り、適切な声かけをしていることが増加の要因と考える。 ・委員会の常時活動の設定がよくなったと考えられる。	・引き続き、係活動の様子を見取り、声かけをしていく。 ・後期の委員会では、児童の問題意識、必要感から常時活動を設定していく。
	⑤	道徳教育 ・校内研究の組織的な取り組み ・教育活動全体における道徳教育の推進 ・家庭・地域とのつながりの推進	道徳推進部 学務部 道徳推進教師	自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる児童、道徳教育が大切であると感じていると考えた保護者と、重点を意図して道徳の授業を行っていると考えた教職員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A+B 88%	B	100%	A	100%	A	・R6前期に比べ保護者アンケートの肯定的評価の割合が22%増えている。昨年度からの保護者・地域との連携した道徳教育の成果が見られる。 ・児童アンケートについては、昨年度3月の道徳アンケートでは、同じ結果だった。各学年の結果を見ると、ややばらつきが見られた。	・昨年度から行っている取組を継続しながら、児童がより自分の考えを深めることができるように、研究授業を通して教員が学び合っている。
たくましく	⑥	体力の向上 ・授業に時間走や鬼遊び、ストレッチや鉄棒・倒立を意識して取り入れる。	特活部	体をよく動かして体力がついてきていると考えた児童と、体力向上に向けて積極的な指導を行っていると考えた教職員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A+B 92%	A			100%	A	・R6後期より5%肯定的評価が増えている。 ・アンケートを取った日あたりは暑さや寒さ、外での遊びも制限されていたと思うが、この数値ということは、体育の時間の活動が充実しているということが見て取れる。	・2学期以降も引き続き、「体育の学習」を活用しながら、体育の時間の充実を目指す。 ・秋ごろを目安に、体育委員会の創意活動として、運動系の企画を実施し、体を動かす機会を提供する。
	⑦	自己指導能力 ・学習指導の中で、児童が自己指導能力を高められるよう、児童を促したり、認めたりしていく。 ・生徒指導の視点から自分の重点項目を選んで、教師同士が手立ての交流をすることでスキルアップを図る。 ・スクールワイドPBSの項目について、児童が目標をもって取り組めるようにする。	生徒指導部 生徒指導主事	自己指導能力を高めていると考えた児童と、自己指導能力を高めるように指導していると考えた教職員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A+B 90%	A	100%	A	100%	A	・保護者や教師など、子供と関わる大人は、児童の取組を褒めたり認めたりすることができている。また児童も、90%と大変多くの児童がなりたいた自分に向けて自分から行動することができている。	・2学期の目標を決める際に、学年別に「わかった」「できた」の目標を立てる。また、その目標を達成するためにどのような行動が必要かについても考えるようにする。 ・引き続き大人は児童のよいところを褒めたり認めたりしていく。
業務改善		⑩ 業務改善 ・昨年度と比較を可視化して、自らの勤務状況を周知・啓発する。 ・月1回の全体定時退校日とセルフ定時退校日を設定する。	教頭	成果指標を達成したと答える教職員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A+B 92%				92%	A	・月別平均昨年比4月1236減、5月328増、6月643増、7月55減、4～7月320減 ・全体的に減っているが、時間外勤務時間の多い職員が固定化している。意識改革が必要であると考えられる。	・月1回の全体定時退校日とセルフ定時退校日を9月、10月、11月は2日設定する。 ・昨年度と比較を可視化して、自らの勤務状況を周知・啓発する。
児童評価				実現状況の達成基準	児童	判定	保護者	判定	教員	判定		
白山市学校評価共通項目	⑪	学共① ・自己肯定感の向上 ・安定した学級、学年経営 ・組織的ないじめ未然防止、早期対応 ・互いの良さや存在を認め合う活動の充実	生徒指導部 特活部	学校で楽しく過ごしていると答えた児童・保護者、教職員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A+B 89%	B	97%	A	100%	A	・児童は概ね学校を楽しんでいる。多くの保護者も子どもが楽しく学校に通っていると感じている。学年別に見ると、5年生がやや落ち込んでいる。 ・⑪に関連するが、友達から嫌なことを言われたり意地悪をされたりするが、安心感を感じられない原因であるとされる。	・友達を不快にさせない言葉遣い、いじめ防止に関する取組を2学期に行う。 ・大人が子供を意図的に褒めたり認めたりする場面をつくる。
	⑫	学共② ・授業力向上 ・校内研究の組織的な取り組み	学務部	ねらい育みだ質実・能力を明確にし、子供一人一人が「わかった」「できた」を実感できる授業を行っていると考えた教職員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A+B 97%	A	94%	A	100%	A	・R6後期とほぼ同じ結果であり、児童が授業を通して「わかった」「できた」が積み重なっていると考えられる。 ・保護者評価については、子供の意見を積極的に反映していると考えられるが、そのほかに美川の日の参観により、本校の授業や学習について理解を得られていると考えられる。	・昨年度からの道徳科について授業実践を積み重ねているので、その中で他教科でも使える手立てを考え実践する。 ・教師主導ではなく子供主体の授業を全学年で実践し、児童が「わかった」「できた」を実感できるようにする。
	⑬	学共③ ・組織的ないじめ未然防止、早期対応 ・安定した学級、学年経営 ・自己肯定感の向上	生徒指導部	学校で安心して過ごしていると答えた児童・保護者、教職員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	A+B 87%	B	95%	A	100%	A	・児童も保護者も概ね学校に安心感を感じている。 ・学年別に見ると、5年生がやや落ち込んでいる。 ・⑬に関連するが、友達から嫌なことを言われたり意地悪をされたりするが、安心感を感じられない原因であるとされる。	・友達を不快にさせない言葉遣い、いじめ防止に関する取組を2学期に行う。 ・大人が子供を意図的に褒めたり認めたりする場面をつくる。

R7 前期学校生活アンケートより

「かしこく やさしく たくましい 美川っ子」を育てるための改善策

かしこく【分かりやすい授業を目指して】

- ・聞く力の育成に向け、国語科の「話すこと・聞くこと」の学習を重点単位とし、指導を行います。
- ・教師主導ではなく子供主体の授業を全職員で実践し、児童が「わかった」「できた」を実感できるようにします。

やさしく【学校が楽しい児童100%を目指して】

- ・友達を不快にさせない言葉遣い、いじめ防止に関する取組を2学期に行います。
- ・大人が子供を意識的に褒めたり認めたりする場面をつくり自己肯定感の向上を目指します。
- ・昨年度から行っている取組を継続して、児童がより自分の考えを深めることができるような道徳教育を推進していきます。

たくましく【心身ともに健全な児童の育成を目指して】

- ・体育委員会の創造的活動として、運動系の企画を実施し、体を動かす機会を増やします。
- ・自らの2学期の目標を達成するために、どのような行動が必要かについて考えさせる指導をします。

令和7年度も本校では、学校目標を「社会とのつながりの中で、学力そして豊かな心とからだをそだてる」とし、全教職員で「かしこく やさしく たくましく」を目指す子どもの姿として日々指導しています。

アンケート結果や皆様から頂いたお言葉ご意見を真摯に受け止め、今後の指導にいかしていきます。子どもの健やかな成長のためにも家庭、地域、学校が連携していくことが大切だと考えております。今後も教育活動に対するご理解ご協力をお願いいたします。